

# カリキュラム・教科書・アセスメント

## コンポーネント活動状況（2020年5月）

新型コロナウイルスの影響が世界各地へと広がっています。ミャンマーも例外ではなく、5月29日現在、外出制限等が継続しています。今回は、ミャンマーの学校の現状と、プロジェクトの状況をご報告します。

### ミャンマーの学校の現状

ミャンマーでは、例年3月から5月まで正月／夏季休暇中で、6月1日に新学年が開始されますが、学校は通常どおり開校されず、7月下旬以降に高校から順次再開し、初等教育の再開は8月中旬以降となる見込みです。通信インフラの整備が途上でアクセス困難な地域が多く残されるミャンマーでは、学校休業となった場合の学びの継続は大きな課題です。

学校の長期休業期間に重なったことから、現時点ではミャンマーの学校教育への直接的な影響は少ないと言えます。しかしながら、もともとミャンマーは年間授業日数が少ないため、休校が長期化すると必要な学習内容を完了できないリスクが高まります。また、このまま新学期を迎えると、子どもたちは担任の先生やクラスメートとの関係を築いたり学習のペースをつかんだりする機会のないまま、遠隔教育を受ける可能性もあり、学習・指導の大きなデメリットとなることが心配されます。

なお、学校長期休業中のコロナ感染拡大を受け、ミャンマー教育省は以下のような独自の対策を精力的に打ち出しています。

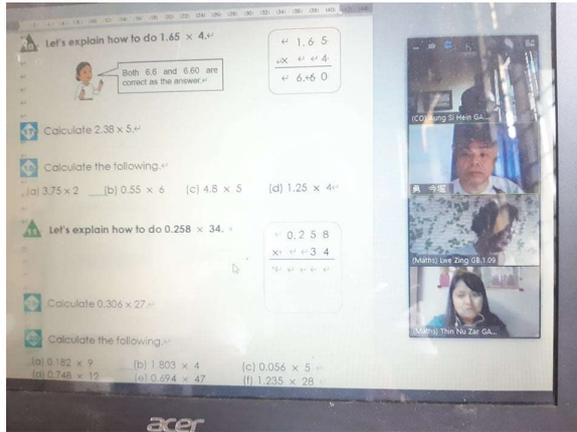
- 2017年よりカリキュラム改訂が進行中で、今年には新学年開始前に全国の教員を対象に第4, 7, 10学年の新カリキュラム導入研修を実施することとなっています。教育省は、対面での研修も引き続き検討すると同時に、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、研修コンテンツをオンラインプラットフォーム（Myanmar Digital Education Platform）上で公開することや教育テレビ、SNSでの配信、物理的な研修パッケージの送付等による遠隔研修の準備を進めています。インターネットが利用できない遠隔地むけには持ち運び可能なサーバーに研修コンテンツを格納・配布することも検討されています。
- 新学年の開校が延期されるため、減少する授業日数に対応する代替手段も検討されています。分散登校と家庭学習での補完、教育テレビでの授業放映等が計画されています。



### プロジェクトの現状

現在、専門家のミャンマーの渡航は全面的に見合わせとなっており、教育省カウンターパートとプロジェクトスタッフについても在宅勤務を行っています。今まで経験したことのない状況下ではありますが、CREATEプロジェクトでは、データ共有やビデオ会議の環境、定期的な進捗確認やサポートのシステムを急ピッチで整備し、第5学年全10教科のカリキュラム開発および、教員養成校カリキュラムに資する教材の開発を、スケジュール通り実施しています。

頻繁に起こる停電等、在宅勤務にかならずしも最適な環境ではない状況で働くカウンターパートやスタッフもいます。そのような状況の中でも、精力的にプロジェクトを押し進めていく彼らには頭が下がる思いです。



作成中の教科書を見ながらミーティングを行う算数チーム



日本にいる専門家とミーティングを行う英語チーム

また、遠隔教育への支援としては、新型コロナウイルスの影響で新学年に学校が休業となる場合の家庭学習について UNESCO から打診を受け、CREATE プロジェクトでも、一部教科の自宅学習資料の作成、提供を行っています。更に、これまでにプロジェクトで制作した、新カリキュラムの改訂ポイントをわかりやすく伝えるためコマーシャルやドラマ（短編、長編）、新カリキュラム導入研修の資料として作成したサンプル授業映像などをテレビ放映向けに提供、再編集することで、教育省の取り組みを支えています。

世界的な危機の中、CREATE プロジェクトでは、カウンターパートやスタッフ、専門家が一丸となって、日々奮闘しています。一日も早く、新型コロナウイルスが収束することを祈りつつ、子どもたちの学びを止めないよう、教育省への支援を続けていきます。

文責：宮原光、大津璃紗（広報）